

J R 四国労組自動車支部ニュース

平成 29 年 11 月 1 日 (No. 5)

発行責任者／中濱 斉

編集責任者／嶋田 剛好

中間決算概況発表

経 常 利 益 1 5 5 百 万 円

中間純利益 1 0 0 百 万 円

J R 四国労組は、10 月 26 日に開催された経営協議会において「平成 29 年度中間決算概況」について次のとおり説明を受けた。【詳細は別紙資料を参照】

【営業概況】

平成 29 年度上期の高速バスについては、台風の影響による運休が 8～9 月に 9 1 便あり、前年 9 月の運休 46 便と対比しても約 2 倍となったことに加え、続行便の運行便数も前年に比べて 6 便減となった。結果、高速バス部門の運送収入は、1,791,558 千円（対前期比 99.1%）となった。

一方、ローカルバス路線は、久万高原線の路線削減の影響等により、運送収入は 41,557 千円（対前期比 90.5%）となった。

また、貸切バス事業は、前年度首から徳島支店のみでの事業展開として J R 四国ワープとの連携による旅行商品の設定と催行を行うほか、日帰りバスツアーの旅行を自社で企画・募集し収入の確保に努めてきたが、改善が見込めない見通しとなったことから 9 月末で撤退した。その結果、貸切バス運送収入は 10,574 千円（対前期比 55.9%）となった。

以上の結果、売上高 1,911,855 千円（対前期比 1.6%減）、営業利益 144,529 千円（対前期比 4.8%減）、経常利益 155,517 千円（対前期比 0.9%増）となり、法人税等を差し引いた中間純利益は 100,188 千円（対前期比 3.2%減）となった。

J R 四国労組は、厳しい経営環境の中、引き続き「安全・安心運行」を第一義に、下期に向けての対処すべき課題解決を図り、収益拡大に向けた取り組みを推進するよう要請した。

なお、会社より平成 30 年 3 月期の業績予想として、高速バス京阪神便の収入減などにより、経常利益 220,925 千円（対前年△111,000 千円）、当期純利益 138,325 千円（対前年△96,979 千円）と見込んでいるとの説明を受けた。

以 上

平成29年度中間決算概況について

平成 29 年 10 月
ジェイアール四国バス株式会社

平成 29 年度の中間決算(期間：平成29年4月1日から平成29年9月30日まで)の概況について、お知らせいたします。

1 事業の経過及びその成果

(1) 営業概況

当事業年度におけるわが国の経済について、政府の9月発表の月例経済報告によると、「景気は、緩やかな回復基調が続いている。先行きについては、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかに回復していくことが期待される。ただし、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある。」などと報告されています。

こうした環境における当社の今期の主な営業概況は、次のとおりです。

4月中旬から高速バス車内にてフリーWi-Fiを利用できるサービスを松山エクスプレス大阪号やドリーム号3系統を含む8路線において順次開始しました。

5月1日には、観音寺バスプラザに併設するパーク&バスライドを24時間300円前払い方式にて、総数24台の施設規模で供用開始しました。

7月1日には、香川県西讃地区の高速バス運行について、他社高速バス事業者との運行と販売の業務提携を解消しましたので、観音寺エクスプレス号のバス停留所として「善通寺インターバスターミナル」を廃止、「善通寺本郷通り」を新設しました。新設のバス停留所では、ドリーム高松号も乗降扱いすることとしました。

同日から、観音寺エクスプレス号の利用誘発を図る早売14，早売7を設定していますが、11月末まで期間を延長し利用増を目指しています。

坂出インターバスターミナルでは、業務提携解消により乗り入れする高速バスの便数減少もあり、併設する坂出バスプラザは、9月1日から窓口営業時間帯を変更し、効率的運営に努めることとしました。

なんごくエクスプレス号では、格安きっぷの得特14，得特7およびグループ割引乗車券の設定期間を、それぞれ平成30年3月末まで延長することとし、バス利用増進につなげる施策としています。

老朽化した2階建てバスの代替車としてハイデッカー型28人座席車両への更新は、前年度のオリーブ松山号、ドリーム高松号に続き、4月下旬にドリーム松山号、ドリーム高知号において、それぞれ実施しました。

高速バス輸送人員は、台風の影響による運休が8～9月に91便あり、前年9月の運休46便との対比では、約2倍であったことに加え、続行便の運行便数も前年

に比べて6便減となりましたが、対前年比100%にとどまりました。

高速バス部門の運送収入は、1,791,588千円（対前期比99.1%）となりました。

一方、ローカルバス路線では、4月1日から大栃線のバス停留所「山田駅前」を利用者の判別の容易性に配慮した「えびす通」に名称変更したほか、同時に美良布～大栃間で自由（フリー）乗降扱いを開始しました。

大栃線では、7月21日から、日本郵便（株）の郵便局間の郵便物等の運送を受託し、定期運行のバスでの運送を開始しました。

また、久万高原線では、9月1日から精神障害者割引（手帳所持者は5割引等）を愛媛県内主要乗合バス事業者と時期を同じくして、導入しました。

さらに、久万高原線では、一日乗り放題きっぷ（土日祝限定及び平日限定の2種）のご利用が好評なことから、それぞれ運賃額を200円値上げして1,400円と1,500円の設定で、年末まで継続しています。

ローカルバス部門の運送収入は、41,557千円（対前期比90.5%）となりました。

貸切バス事業は、前年度首から徳島支店のみでの事業展開として、J R 四国ワープとの連携による旅行商品の設定と催行を行うほか、日帰りバスツアーの旅行を自社で企画・募集し、収入の確保に努めてきましたが、改善が見込めない見通しとなり、9月末日限りで廃止しました。これにより当社の一般貸切旅客自動車運送事業は全廃となりました。

貸切バス部門の運送収入は 10,574 千円（対前期比 55.9%）となりました。

安全安心の確保については、引き続き、ドライブレコーダデータを共有化して、乗務員研修やヒヤリハット報告の映像としての活用を図りました。

さらに、安全装置としてソナーシステム（後方コーナー部異常接近警告）を30両追加装備し、新製車両とこれまでの装備車も合わせて77両に装備できました。

運行管理者・補助運行管理者研修、指導運転係研修、若年運転係のフォローアップ研修、事故惹起者等の特別研修などの継続開催を通じて、安全安心運転の確保についての意識改革、運転技量の向上に努めました。

一方、乗務員リーダー研修では、過去の事故映像やヒヤリハット映像の活用方や車両故障の対応訓練等を行い、これらの題材に前期に行った南海大地震対応訓練の題材を加えて、各乗務員グループでのグループ活動を行い、異常時対応能力や危険予知能力の向上に努めました。

9月末時点で、自動車事故件数は25件、対前期4件増となりました。

以上の結果、売上高 1,911,855千円（対前期比 1.6%減）、営業利益 144,529千円（対前期比 4.8%減）、経常利益 155,517千円（対前期比 0.9%増）となり、法人税等を差し引いた中間純利益は100,188千円（対前期比3.2%減）となりました。

2 当社が対処すべき課題

安全方針である「安全綱領」の下「安全・安心輸送の確立」に向けた取組を強化して参ります。車両の安全装置では、衝突被害軽減装置等の標準配備のほか、ソナーシステム等安全補助装置の拡大を行います。

運転係や運行管理者等には、各種事故防止の研修・訓練を継続するほか接客サービス研修により、接客レベルの向上を目指し、お客様のご意見、ご要望を各種施策に反映させ、良質で特徴ある企業イメージの醸成に結びつけます。

さらに、南海大地震等の異常時対応訓練を充実させると共に、災害時の社員等の安否確認システムの活用を進めます。

高速バス部門は、高速バスの利用増は、四国との人的交流を拡大することに結びつくことを念頭に、適時適切な施策による収益性の向上に取り組めます。

高速バスの販売部門では、電話予約センター業務のデータ分析を深度化し、より適正な要員配置を求め、乗車券予約受付や販売手段の変化に応じた効率的運営を模索することとし、乗車券の自動発券機のバスプラザへの設置を拡充します。

ローカルバス部門については、生活路線補助金の支援を受けつつ、収支改善に取り組めます。大栃線は、利用動向を把握する中で、減少傾向を見越した施策を検討します。

一方、事業運営に必要な施設等については、高松支店については、J R 四国高松運転所構内改良工事の一環である新築となる統合事務所建物への移転準備を進めます。さらに松山支店の乗泊所の改築やバス洗浄装置等の更新にむけて、周辺施設の改修に着手します。

事務部門では、現業機関から本社への業務の集約・移管による配置要員規模の縮小を模索し、間接部門の業務運営の効率化や運行部門と販売部門のコスト削減とも合わせ、基幹的事業である高速バス路線の収益性の向上に取り組めます。

3 設備投資の状況

当上半期中に実施した設備投資総額は 413,816 千円であり、内容は次のとおりであります。

・高速バス老朽取替	1 0 両	380,864 千円
・プラザ自動券売機設備整備	3 台	19,221 千円
・高速バスソナーシステム設備整備	4 4 両	5,442 千円
・観音寺駐車場設備整備		5,100 千円

4 平成30年3月期の業績予想

(単位：千円)

科 目	平成 28 年度 決算実績 A	平成 29 年度 見込計画 B	増減額 B-A	主な増減理由
営 業 収 益	3,920,349	3,854,613	△65,736	高速バス京阪神便の収入減
営 業 利 益	324,714	205,627	△119,087	減価償却費の増加
経 常 利 益	331,925	220,925	△111,000	
当期純利益	235,304	138,325	△96,979	

【参考資料】

平成 29 年 度 中 間 決 算 収 支 状 況

会社名 シェアール四国バス株式会社
(単位:百万円、単位未満切捨)

項 目	29年度 中間決算	28年度 中間決算	増 減	対前期比	記 事
営 業 収 益	1,911	1,943	△ 31	98.4	
乗 合 収 入	1,833	1,854	△ 21	98.9	
一 般 線	41	45	△ 4	90.5	ローカル利用減等
高 速 線	1,791	1,808	△ 16	99.1	京阪神便減等
貸 切 収 入	10	18	△ 8	55.9	運行両数 279→121
運 輸 雑 収 入	68	70	△ 2	96.5	広告収入及び発売手数料減等
営 業 費 用	1,767	1,792	△ 24	98.6	
人 件 費	749	786	△ 37	95.2	役員・社員△8 契約社員△29
動 力 費	153	150	3	102.3	単価差14(@74.41→@82.19)及び 業務量・消費率差△11
業 務 費	548	571	△ 23	95.9	被服費△9 保険料等△14
修 繕 費	88	87	1	101.8	修繕波動等
諸 税	7	9	△ 1	85.9	雑税減等
減 価 償 却 費	219	185	33	117.9	営業用自動車償却費増等
営 業 損 益	144	151	△ 7	95.2	
営 業 外 損 益	10	2	8	461.4	自動券売機負担金収入増等
経 常 損 益	155	154	1	100.9	
特 別 損 益	2	12	△ 9	785.7	固定資産売却益減等
税引前当期利益	158	166	△ 8	95.0	
法 人 税 等	49	68	△ 19	71.9	
法人税等調整額	8	△ 5	14	—	
中 間 純 利 益	100	103	△ 3	96.8	

【参考資料】 平成29年度第2-四半期営業概況報告の件

○運輸収入

高速バス部門は8、9月に台風の影響で91便の運休（前年は9月に46便運休）があり、特に9月の運休は連休の多客期であったため大きな影響があったこと等で高速バスの第2四半期累計の収入は16百万円減の対前年99%に留まりました。

路線別では松山～東京線が代替運行71便で8百万円、高知～京阪神線が続行便132便増で7百万円、島内系統が好調な利用で6百万円の増収となりましたが、香川～京阪神線で利用減により18百万円、徳島～京阪神線でも利用減で16百万円の減収がありました。

ローカル部門は久万高原線が路線削減の影響で4百万円、貸切部門は8百万円減でした。

○高速バス輸送人員（便当たり人員）

便当たりの人員では、京阪神系統が香川、愛媛が対前年101%、高知が同103%と好調でしたが徳島が同99%であり4県合計では対前年100%と前年並みに推移しました。

東京系統では徳島を除き使用車両の変更（33席→28席）により対前年98%となり、名古屋系統は他社の運賃施策の影響が少なくなり対前年95%まで回復しました。

◎運輸収入

（単位：百万円、%）

輸 送 別	第2-四半期累計				
	本 年	前 年	対 比	計 画	計 画 比
高 速	1,792	1,808	99%	1,831	98%
ロ ー カ ル	42	46	91%	40	103%
貸 切	11	19	56%	23	46%
合 計	1,844	1,873	98%	1,894	97%

○高速バス収入内訳

（単位：百万円、人）

		第2-四半期累計			便当人員（第2-四半期累計）		
		本年	前年	前年比	本年	前年	前年比
高松 EXP	高松～大阪	124	126	99%	17.4	17.1	102%
	高松～神戸	83	83	100%	15.1	14.9	101%
	高松～京都	55	56	98%	17.7	17.5	101%
	高松EXP計	261	264	99%	16.6	16.4	101%
観音寺EXP	観音寺・坂出～神戸・大阪	124	138	89%	15.7	15.7	100%
	香川～京阪神計	385	403	96%	16.5	16.3	101%
	高松～関空	19	20	97%	12.5	12.7	98%
阿波 EXP	徳島～大阪	157	165	95%	20.3	20.8	98%
	徳島～神戸	145	148	97%	23.5	23.6	100%
	徳島～京都	43	46	94%	19.9	20.0	100%
	阿波EXP計	344	360	96%	21.4	21.7	99%
高知EXP	須崎・高知～京阪神	303	295	103%	19.7	19.2	103%
松山EXP	八幡浜・松山～京阪神	186	185	100%	16.2	16.1	101%
岡 山	高知～岡山	17	16	104%	15.5	15.4	101%
	松山～岡山	27	28	99%	14.1	15.0	94%
	岡山計	44	44	101%	14.9	15.2	98%
	高松～広島	41	42	96%	18.1	17.5	103%
四 国 島 内	高松～高知	41	40	101%	13.3	13.1	102%
	高松～松山	84	83	102%	14.2	13.7	104%
	徳島～松山	38	38	99%	15.7	15.5	101%
	徳島～高知	15	15	98%	14.7	15.2	97%
	松山～高知	78	74	106%	18.5	18.3	101%
	四国島内計	256	250	102%	14.7	14.5	101%
東 京 ・ 名 古 屋	松山～東京	59	51	116%	23.8	25.0	95%
	高知～東京	45	48	93%	25.5	26.7	96%
	観音寺・高松～東京	88	87	101%	24.5	25.9	95%
	阿南・徳島～東京	0	0	0%	26.8	24.5	109%
	松山・高松・徳島～名古屋	22	23	96%	20.0	21.0	95%
	東京・名古屋計	214	209	102%	24.1	24.6	98%